

# スマイルライフ通信

平成28年10月

NO. 4

徳之島地区 医療・介護連携推進事業

～ 最期まで自分らしく笑顔で過ごせる島を目指して ～

「在宅でも施設でも、本人と家族の選択のもとに、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができる」ことを目指して取り組んできた在宅医療・介護連携推進事業。事業をかさねるごとに、関係者の連携がスムーズになるとともに、施設等での看取りの取組みも少しずつすすんできています。

平成28年度 第1回

「在宅医療・介護連携推進検討会」

7月1日(金)13:30～17:00 徳之島町生涯学習センター  
認知症の相談対応事例の検討を通して、地域における医療・介護の連携や多職種連携の課題を検討していくことを目的に、認知症初期集中支援チーム員会議と合同で開催しました。



各町から提出された認知症相談事例をもとに、事例を通じた医療・介護の連携、多職種の連携、地域支援体制のプロセス検討を行いました。  
出席者：医療・介護・福祉関係者 40名  
医師1名、看護師12名、MSW2名、ケアマネジャー9名、リハ職1名、歯科衛生士1名、訪問介護1名、社協3名、PSW1名、その他 地域包括支援センター職員等



<主な意見>

## ○気づき・つながり、連携について

- ・気づいたことをつなげること。情報をキャッチし、多職種へのつながりをしていく
- ・地域で少しでもキャッチできるような体制づくりを(認知症サポーター養成、若い世代への広報、健診等の活用など)

## ○支援・対応について

- ・初期集中支援について。一方的な思考だけでなく、周囲の情報も得ながら、専門医の意見や多面的な情報を確認していく。調整役が必要と認識した。

## ○多職種のチームケアに関して

- ・適切な医療へのつながりが必要。症状や生活、家族支援体制に応じて専門職の連携を。
- ・本人・家族の思い(ニーズ・希望)を中心として、多職種で話し合いを重ねること。
- ・関わる人たちは、その人の人生や生活のありように大きな影響を与えることになる。あくまで本人の「思い」にこだわって支援していきたい。

## ○地域支援、家族支援について

- ・本人、家族の選択、覚悟が必要。一般向けの講座など、普及啓発をすすめる。
- ・家族のかかわりや支援を引き出していくことも大事。
- ・ももとの地域のつながりはあるが、ボランティア養成などで認知症対応(話し相手)や生活支援など深い関わりができるようになっていく。各町での養成をすすめてほしい。
- ・家族支援、地域支援があり、安心できる環境を作ることで、悪化せず在宅生活が可能となる。

7月1日(金)18:30~20:00「ケアの質向上支援のための研修会」

### 「看取りと認知症ケア」

講師:介護老人保健施設 愛と結の街 施設長 黒野明日嗣(くろのあすつぐ)先生

3月に開催された施設長・管理者対象の研修会に続き、今回は主に現場職員(介護・看護)向けに開催。230名の方が参加し講師の話に熱心に耳を傾けました。



#### (講演要旨)

老衰で亡くなることは、自然な死であるが、医学が発達したことで「自然な死」を迎えることが難しい時代になった。自分自身で死に方を選択しなければならない。

良い最期とは何か?一度、皆で考え、話し合ってみることも大事。

関係性の中の死—ご本人が大事にしてきた家族や地域の関係性の中で、良い関係のまま最期を迎えられることを支援したい。

自分はどう最期を迎えたいと考えていますか? 本人と向き合うには、自分自身のこととして死生観を考えることも必要。

看取りとは最期だけを言うのではない。

ユマニチュードなど、本人を尊重した良いコミュニケーションを基本として信頼関係を結び、より良い日常のケアの積み重ね、ご家族も含めて良い関わりを行っていくことがより良い最期につながる。

#### <徳之島診療所 徳田潔所長より学会&研修参加報告>



徳田先生には各種事業にいつも積極的にご協力を頂いており、チーム員会議もさっそく加わってくれています。今後も地域ケア推進の牽引役を担っていただけることと思います。

#### ○第18回 日本在宅医学会大会、第21回 日本在宅ケア学会学術集会 合同大会

平成28年7月16~17日 東京ビックサイトTFTホール

今年のメインテーマは「在宅医療とケアの原点」、会場は多くの参加者に埋め尽くされていました。当日企画のひとつで「地域包括ケア時代のがんの緩和ケアのあり方を考える」というシンポジウムがあり、内容として医療従事者の関わりも然ることながら、主体者である患者会NPOの「がん患者サロン」や「いのちの授業」の取り組み、行政として松戸市の「まちっこプロジェクト」の取り組みの報告があり、がん緩和ケアにおいても多面的な取り組みが重要だと改めて実感致しました。

会場で見かけたお薦め図書、「ユマニチュード入門」医学書院、認知症ケアの画期的な取り組みの入門書です、機会が有りましたら是非手にとってみて下さい。

サプライズで、以前徳之島診療所に勤務下さっていた渡邊正哉医師とも偶然の再会も出来、違う意味でも有意義な学会参加となりました。来年の開催は、名古屋です。

#### ○認知症サポート医研修 平成28年8月27日~28日名古屋開催

認知症サポート医研修会への参加動機は、認知症ケア加算算定のためでしたが、実際に研修会へ参加し、その役割の地域における重要性を知りました。認知症サポート医制度が開始されて10年近く経ちますが、その役割は未だ発展途上に在る様子です。初期はスタッフ教育、認知症サポーター育成が主であったものが、最近は認知症早期発見・早期診断推進事業のアドバイザー、かかりつけ医へのサポートなど多岐にわたりつつあります。また各地域により、求められる役割の程度が違い、地域差も在ることを知りました。研修会場では厚労省の担当者、様々な立場から要望が出される場面もありました。認定証も先日届き、折角の資格であり、地域の求めに応じ役立てたいと考えています。

施設の看護師さんからの寄稿です。

施設で一体となってお本人・ご家族さんに寄り添い、1つずつ課題に向き合っていく姿勢が素晴らしいですね。素敵な文章です。

### 当施設での1例目のお看取りを終えて

有料老人ホーム白寿苑 看護師 福 美穂子

今年初め頃より、当施設でのお看取りの希望があり、少しずつ準備を進めてきました。初めてのことで不安も大きく、手探りでスタートでした。しかし、ご本人、ご家族にとっては、大切な1度しかないお看取りである事を念頭に置き関わらせて頂きました。

当施設では、看取りの経験があるスタッフがほとんどいないなか、徳洲会訪問看護の木原主任にアドバイスを頂きながら進めていきました。尊厳にも個別性があり、その人らしさを考えていくこと。ご本人の意思を無視した、ただ押しつけの介護、看護になってしまっていないか？「愛と結の街」の黒野先生が講演でおっしゃっていたように、普段の関わりが良いお看取りに繋がること。日々の業務に追われる中、各スタッフがどう考え、どう関わっていくか？そして、これらの介護の人材をどう教育し、どう守っていくか？という事は、今後も大きな課題です。お看取りが、只々、「嫌なもの」、「怖いもの」、「大変なもの」そう思って欲しくない。**最期に立ち合わせて頂く事、自分ではない誰かの人生の一部を覗かせて頂く事、短い時間ではありますが、共に喜び、悩み歩む事、自分の人生にもプラスになっていきます。それを、光栄だと思える人材を育成していきたい。**

少しずつ、スタッフの意識も変わっていき、初めは何をしていいかわからないという感じでしたが、環境や安楽を考える者、ご家族のフォローに回る者、それぞれが、自分に出来る事、自分にしか出来ない事を考え、ケアに携わってくれました。そして、お別れの時に皆がみせた涙は、とても感慨深いものとなりました。その成長がとても嬉しく、私自身も、初心に返れた様な気持ちになれました。ある意味、最後の瞬間より、ご本人・ご家族さんが死に向かって葛藤し、苦しんでいるお姿を見守る事の方が辛いと思いますが、そこに向き合っていくのも、私達の役割です。

最後の瞬間にどうしても立ち会ってあげたいというご家族さんの強い思い、最後の親孝行の時間に少しでもお手伝いさせて頂けた事を光栄に思います。病院より、寄り添ってあげられる。在宅より、ご家族への負担が少ない。だからこそ、ゆっくりと、残された日々をご本人と共に過ごして頂ける。施設でのお看取りも良いものだなと思いました。

未熟な面から、行き届かない点も多々あったかと思いますが、ご家族さんより感謝のお言葉をかけて頂き、本当に感謝しております。それが、スタッフのやり甲斐にも繋がって欲しい。

先日、今回のお看取りの振り返りを行い、環境面、教育面、日々のご本人の意思の汲み取りと、課題はまだまだ山積みであるのが現状です。そこをどう改善していくか？今回学びを与えてくれた、ご本人とご家族に感謝し、日々の介護、看護の在り方を、一人一人が考えていける職場づくりに精進していければと思います。

### 第3回 認知症初期集中チーム会議 開催



平成28年9月30日(金)  
伊仙町役場

これまで検討したケースの経過報告を行った後、今回は3事例の検討を行いました。  
黒野先生のサポートのもと、徳之島診療所の徳田医師をはじめ、徳洲会病院の相談員・ケアマネジャー、宮上病院のOTにご参加いただき、多様な視点から今後の支援体制について検討しました。  
若年性認知症の発症によって、それまでの生活や家族関係が大きく変わることも…本人・ご家族に寄り添い、向き合いながら、今後の支援や生活の在り方を一緒に考えていけるようにしたいものです。

## < 10月以降の在宅ケア関連事業のご案内 >

### 10月26日・27日 鹿児島県看護協会会長 田畑千穂子氏が来島

一昨年からお世話になっている、元鹿大病院副看護部長の田畑さんが、今年度はフリーの立場で来てくれます。

- ①10月26日 18:30~20:00 多職種合同事例検討会 (伊仙町中央公民館)
- ②10月27日 13:30~16:00 一般住民対象講演・事例発表等  
会場:天城町役場ユイの里ホール
- ③10月27日 18:00~20:00 看護職対象研修会「看護倫理」  
会場:徳洲会病院5Fリハ室

### 11月30日(木) 18:30~20:30 「地域包括ケア時代の医療と介護」

講師: 櫃本真幸(ひつもとしんいち)先生 (元愛媛大学病院総合診療サポートセンター長)

会場: 伊仙町ほうらい館

日本医師会や全国の在宅医療・介護関連事業で講演やアドバイザーとして活躍している櫃本真幸先生が来島!在宅医療や連携のあり方、本質を見据えた話は医療・介護各関係者も一般住民も必見です。



### 12月1日(金) 14:00~16:00 徳之島町文化会館

一般住民対象 「元気を生み出す!地域づくり講演会」

#### 【編集後記】

7月6日に厚労省が全国市区町村別に在宅死の割合を発表しました。全国平均では12.8%。「在宅看取りを支える訪問診療のマンパワーの違いや、自治体の取組みの濃淡などが要因とみられる」と分析していますが、もうひとつ、与論町のように在宅看取りが50%を超えているところは、その土地の「文化や風習」も大きく影響していると言えます。  
徳之島3町では徳之島町13.4%、天城町7.7%、伊仙町7.4%と差があるのは、やはり医療体制の差でしょうか?数値だけではなく、多様な選択肢があることを知ること、選択肢を支える体制があることが大事であり、1人ひとりの方が幸せに生き、できるだけ満足できる最期を迎えられることを今後も目指していきたいものです。

【事務局:徳之島町地域包括支援センター】